

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	音声障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 金曜3, 4	教室名	603
担 当 教 員	柿本明日香	実務経験と その関連資格	言語聴覚士として急性期病院で音声外来に従事していた。			
《授業科目における学習内容》						
<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通して音声治療に必要な知識を学んでいく。 ・DVD映像を用いるなどして、疾患に関する具体的なイメージを持てるように学習する。 ・実技・演習を通し音声障害リハビリテーションにおける実践的な技術を獲得できるよう学ぶ。 						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験70% 小テスト20% レポート10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
指定教科書: 廣瀬肇監修、城本 修ら著『STのための音声障害診療マニュアル』インテルナ出版, 2008年 サブ教科書: 藤田郁代監修、熊倉勇美ら編『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版』医学書院、2015年 (1年次「呼吸発声発語系の構造・機能・病態」教科書)						
《授業外における学習方法》						
毎回の復習(ノート整理)						
《履修に当たっての留意点》						
1年次の『呼吸・発声・発語系の構造・機能・病態』の復習をしておいてください。 これらの基本的知識が身についていることで、音声障害の理解が深まり、音声治療という「実践」の面白さを感じとることができると思います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	講義の全体像を把握し、目標にむかって見通しを立てることができる。	配布プリント	(予習課題)教科書の「序文」「目次」を読んでくる。 興味を持った項目を挙げる。	
		各コマにおける授業予定	イントロダクション、音声障害の定義と概要、分類			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害に関連する喉頭の構造と生理が理解できる。	教科書 配布プリント	(予習課題)1年次の呼吸・発声・発語器官の構造機能病態の「喉頭の解剖」と「発声のメカニズム」を見直す。	
		各コマにおける授業予定	音声障害に関する解剖と生理			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害および音声治療の概要を理解する。	教科書	(予習課題)教科書p44~47を読み、疑問点をひとつ以上考えておく。	
		各コマにおける授業予定	音声障害の診療の流れ、音声治療の概要			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害をきたす病態を理解する。	教科書	(復習課題)器質性疾患についてまとめる。	
		各コマにおける授業予定	音声障害をきたす疾患(1)声帯の器質的疾患			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害をきたす病態を理解する。	教科書	(復習課題)神経性疾患についてまとめる。	
		各コマにおける授業予定	音声障害をきたす疾患(2)喉頭麻痺			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害をきたす病態を理解する。	教科書	(復習課題)機能性疾患についてまとめる。
		各コマにおける授業予定	音声障害をきたす疾患(3)声帯に著変を認めない疾患		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	音声障害に関する検査を理解する。	教科書	(小テスト)疾患の特徴について解答できるよう準備する。
		各コマにおける授業予定	検査		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	音声障害の医学的治療について理解する。	教科書	(レポート課題)GRBASの問題を解く。
		各コマにおける授業予定	医学的治療(音声外科的治療、薬物治療など)		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	音声治療の技法を理解し、手技を身につける。	教科書 配布プリント	(予習)音声障害患者が困難だと感じる場面を考えてくる。
		各コマにおける授業予定	音声治療(1)声の衛生指導・指導マニュアルなど		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	音声治療の技法を理解し、手技を身につける。	教科書 配布プリント	(復習)症状対処的音声治療についてまとめる。
		各コマにおける授業予定	音声治療(2)あくびため息法など		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	音声治療の技法を理解し、手技を身につける。	教科書 配布プリント	(復習)症状対処的音声治療についてまとめる。
		各コマにおける授業予定	音声治療(3)プッシング法など		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	音声治療の技法を理解し、手技を身につける。	教科書 配布プリント	(復習)包括的音声治療についてまとめる。
		各コマにおける授業予定	音声治療(4)包括的音声治療(アクセント法など)		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	気管カニューレの構造と機能を理解する。	教科書	(予習)喉頭摘出後における喉頭の解剖を描けるようにする。
		各コマにおける授業予定	気管切開後の状態、カニューレの種類と仕組み等 *KOKEN担当者による特別講義		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	喉頭摘出後の解剖、機能を理解する。	教科書 配布プリント	(小テスト)音声治療の特徴について解答できるよう準備する。
		各コマにおける授業予定	喉頭摘出適応の疾患、人工喉頭の種類、適応、訓練(1)		
第15回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	喉頭摘出後のコミュニケーション方法を理解する。	教科書 配布プリント	(予習)カニューレの種類と特徴についてまとめる。
		各コマにおける授業予定	喉頭摘出適応の疾患、人工喉頭の種類、適応、訓練(2)		